

# 白鷗大生と取り組んだ 「小山かるた」づくりの実践報告

## — 小学校社会科身近な地域（郷土）に関する 学習の指導力育成をめざして —

原 口 美貴子<sup>1</sup>

### 1 はじめに

2006年に改正された教育基本法に「郷土」という用語が新たに採り入れられ、教育現場から様々な関心を集めている。郷土とは身近な地域と同義語であることから、身近な地域を学習する小学校社会科において郷土をどう捉えるか、またどう扱うかは重要な課題となっている。筆者が本学で担当する「社会科概説Ⅱ」（教科専門科目、2単位）では、郷土の本質や郷土概念について探求するとともに、郷土（身近な地域）を題材にした日本古来の文化・郷土かるたに着目し、各種郷土かるたの内容分析や郷土かるた制作演習を行いながら、小学校社会科教育の一内容及び一教材としての魅力や意義等を検討・考察している。

郷土かるたを用いた社会科学習は、『新しい社会3・4年上』（東京書籍、2013年）の第3章「かわってきた人々の暮らし」第2節「のこしたいもの、つたえたいもの」の学習のまとめとして取り上げられている。学習教材として優れた価値を持つと考えられている郷土かるたについて、将来教員を目指す学生が、大学時代にその制作の手法を学び、魅力や意義につ

---

<sup>1</sup>白鷗大学教育学部

<sup>1</sup>E-mail : msmiki@fc.hakuoh.ac.jp

いて理解しておくことは、大きな経験になると考える。

小稿は、2013年度後期と2014年度前期の「社会科概説Ⅱ」受講生と取り組んだ「小山かるた」づくり、及び2カ年の「小山かるた」をもとにゼミナールの学生と検討・改良を加えて取り組んだ完成版「小山かるた」づくりとその活用に関する実践報告であり、教職課程の授業における郷土かるたづくりの有効性を提起するものである。

なお、2013年度受講生は46名、2014年度受講生は61名で、単位認定条件として一人1組の読み札・絵札の提出を課題としたので、社会科概説Ⅱの受講生が制作した「小山かるた」は、いろはかるたの札数である44を超えている。また、講義回数への制約から、頭文字が五十音順に全て揃わず、同音が複数あったり、抜けている音があったりすることを、あらかじめご了承ください。

## 2 社会科概説Ⅱにおける「小山かるた」制作概要

### (1) 2013年度制作概要

2013年度受講生全46名のうち、栃木県内出身学生は27名、その中で小山市出身学生は3名であった。また、これまでに知っていたり体験したりしたことのある郷土かるたは、「下野かるた」(3名)、「佐野かるた」(5名)、「U字工事の栃木かるた」(4名)、「古河かるた」(1名)、「上毛かるた」(1名)、「府中かるた」(1名)であった。2013年度版「小山かるた」は90分授業8回を使って制作した。その読み句は第1表の通りである。絵札と解説文については紙幅の関係上省略する。

白鷗大生と取り組んだ「小山かるた」づくりの実践報告

第1表 2013年度版「小山かるた」読み句、題材、題材分野一覧（読み句の五十音順）

	読み句	読み句の題材	題材分野
あ	アユヒナと 願いが流れる 思川 安全で とってもおいしい おやま和牛	思川 小山和牛	自然 産業
い	家康の 天下を決めた 小山評定 色とりどり 華やかな紐 間々田紐	徳川家康 間々田紐	歴史 産業
う	受け継いで 守る中河原 廻り地蔵 うまいうまい 柔らかかジュシー おとんの肉	中河原の廻り地蔵 小山の豚「おとん」	文2 文1
お	小山の地 三度にわたる 義政の乱 小山うどん イワイノダイチと 伏流水	小山義政 小山うどん	歴史 文1
か	関東の 有力武士団 小山政光 かんぴょうの ジャムが入った 甘いるかんた	小山政光 るかんた	歴史 文1
き	北関東 3県結ぶ 小山大橋	小山大橋	交通
く	国史跡 乙女瓦の 壮大感 車から 子どもを守る 愛の橋	乙女不動原瓦窯跡 愛の橋（羽川小前歩道橋）	史跡 交通
け	健康のために 毎日 はと麦茶 ケヤキの木 400年の 歴史あり	はと麦茶 国府神社の大ケヤキ	文1 自然
こ	故郷想い 憂いを帯びた 御白の句	歌人田波御白の生家	歴史
さ	さくら道 通って進めば 小山駅	小山駅	公共
し	しもつけの 豪族眠る 琵琶塚古墳	琵琶塚古墳	史跡
す	相撲取り 豊年満作 祈願する	間々田八幡宮の奉納相撲	文2
せ	戦国の 上杉景勝 五大老 千本ある 小山を彩る 桜の数々	上杉景勝 小山千本桜祭り	歴史 文2
そ	卒するまで 源氏に仕えし 小山朝政 空にはえる 野口家望楼	小山朝政 展望台のある野口家	歴史 公共
た	高台と 思川が守った 祇園城の跡	祇園城跡地	史跡
ち	地域のきずな 花桶かつぎ	花桶かつぎ	文2
つ	通学で 学生はびこる 両毛線	両毛線	交通
て	伝統守って ジャガマイタ	間々田八幡宮の蛇祭り	文2
と	徳川の 時代の鍵は 須賀神社	須賀神社	公共
な	中久喜で 栄華誇った 城の跡	中久喜城跡	史跡
に	日本一 ユウガオ干して かんぴょうに	かんぴょう干し	産業
の	飲む人に 幸福もたらす 三福酒造	三福酒造	産業
は	花火見て 屋台回って いい夏だ	小山サマーフェスティバル	文2
ひ	ひゅうひゅうと 冷たい北風 男体おろし	男体おろし	自然
ふ	古き良き 時代感じる 展示品	小山市車屋美術館	文1
へ	へんだよな 水戸線なのに 水戸着かず	JR水戸線	交通
ほ	ほのぼのと 桜眺めて だんご食う	思川桜	自然
ま	町飾る 色鮮やかに 自然シンボル	小山市の自然シンボル	自然
み	実がつかない!? 城山公園 大イチョウ 妙建寺 五十五枚もの 天井格子絵 未来へと 願いを繋ぐ 観見橋	城山公園の大イチョウ 妙建寺天井格子絵 観見橋	自然 史跡 公共
よ	四号線 小山ブランド 花盛り	国道4号	交通
ゆ	ゆめ乗せはしる 東北本線	東北本線	交通
ら	ラムサール 自然豊かな 遊水池	渡良瀬遊水池	自然
れ	レシチンを 2倍もふくむ 青たまご	青たまご	文1
わ	鷲城が 戦国の小山 支えてる	鷲城跡	史跡

「小山かるた」づくりに入る前に、その基盤的知識を身につけさせるため、社会科教育における身近な地域・郷土の教育的意義や郷土かるたの教育的・社会的意義について講義した。また、「日本地理かるた」(全国地理教育学会ほか, 2011)の競技体験をしたり、8つのワーキンググループ(1グループ6名前後)に分けて既存の郷土かるたの分析を行ったりした。各グループにはメンバーをとりまとめたり、筆者と連絡を取り合ったりするための世話係を2名立てた。

郷土かるたの分析は、郷土かるたについて未知・未体験な受講生がほとんどであったので、郷土かるたの実物構成を確かめたり、各自が制作していく札作りのアイデアを得たりするために、筆者所有の既存の郷土かるたを用いて行った。8つのグループに一種類ずつ貸し出し、制作年、制作者、制作の趣旨、読み札・絵札の枚数、札の表現特徴、読み札一覧、読み札に読まれた題材の分類、題材分布図、解説文の有無、その他添付物の項目を立てて整理させ、全体発表を行った。この課題は郷土かるたに対する認識を深めさせるためだけでなく、学生のプレゼンテーション能力を引き出す機会としても設けた。発表後に書かせた相互評価を見ると、各地の理解、各郷土かるたの特徴、発表の仕方・態度、配付資料の作り方等々、多くの気づきが生じた効果的な活動だったことがわかる(第2表)。

第2表 郷土かるた事例分析発表会相互評価例

発表グループ	分析を行った郷土かるた及び発表態度・内容に対する相互評価例
1	<p>■長野県軽井沢町「軽井沢森の詩かるた」(軽井沢野生動物問題研究会クロス, 2010)                      配付資料が表裏一枚にまとまっていること、札の分類をキーワードで解説していたこと、題材分布図に置けなかった頭文字を特記事項としてまとめていることなど、聞き手への配慮をふんだんに取り入れていた。／かるたがどう制作されたか、また札についてもよく説明していて、しっかり調べてあり興味が持てた。</p>
2	<p>■東京都葛飾区「かつしか郷土かるた」(葛飾区区民運営委員会企画講座, 2012)                      配付資料の文字の大きさや書体に工夫が見られ、説明をより一層分かりやすいものにしてた。</p>
3	<p>■群馬県「新ぐんまかるた」(ぐんまカルタ制作実行委員会, 2008)                      いくつか例をあげて紹介したり、全員できちんと分担していたりしていたところがとてもわかりやすかった。時間もびったりだった。／群馬についてほとんど知識がなかったため、説明や読み札一覧表を見て興味がわいた。群馬県自身の願望が入っていて面白いと感じた。</p>

4	<p>■静岡県「静岡かるた」(静岡かるた普及会, 2007) 発表時間は短かったが、絵札の特徴やかるたの内容を的確にまとめている。／しっかりと札を読み込んでいることが発表を通して感じられた。</p>
5	<p>■岐阜県中津川市「蛭川かるた」(旧恵那郡蛭川村立蛭川小学校PTA, 2005) 札の特徴や記号で分けた分布もわかりやすく伝わり、興味を引き立てられた。納得した。／蛭川かるたについての理解が深まった。岐阜県というわかりにくい県について、その土地の概要やこれからの季節のオススメなどを聴いてかるたをやってみたいと思えた。一度蛭川に行ってみたくなる発表だった。PP資料もとても見やすくまとまっていた。</p>
6	<p>■宮崎県宮崎市「清武かるた」(清武かるた制作委員会, 2009) 宮崎市における清武町の位置の説明と図が分かりやすかった。／3年という制作の月日、集まった句数の多さに驚いた。制作の趣旨に出てきた安井息軒先生の「三計の教え」についての解説も良かった。</p>
7	<p>■千葉県柏市「かしわ郷土かるた」(一般社団法人柏青年会議所, 2008) 私は群馬県出身で千葉県に行くことは今まであまりなかった。だから「こんな所あったんだ」「ここすごいな」とたくさん発見することができた。／地元が千葉で柏に行くことも多かったが、知らない地名や公共物を多く聴きました。手書き地図も見やすかった。</p>
8	<p>■埼玉県「さいたま郷土かるた」(県教育委員会・県子ども会育成連絡協議会, 1982) 配付資料以外にも黒板に地図を掲示していた点が他班になく見やすかった。図は大きく見やすかった。／埼玉には何もないと感じていたが、札の説明を聞く魅力のある県だと感じた。もっと知りたいと思った。／笑顔で発表していた。明るくはきはきと話していて聞き取りやすかった。聞きやすい声量だった。</p>
全般	<p>各県や地域ごとに色々な建造物や自然などがあることが分かり、かるたって奥が深い、興味深いと思った。小山かるた作りでは今回調べた体験が制作の観点を作る上で大切だと感じた。</p>

上記基盤となる講義をふまえて、以下のプロセスで「小山かるた」作りを進めていった。なお、本来ならば制作スケジュールは受講生とともに決め、進行を受講生に委ねたかったが、講義回数等の制約上、スケジュールの作成と進行は筆者が務めた。

### ① 制作スケジュールの説明、小山市の地域の特徴講義、「小山かるた」制作コンセプト協議、グループ別担当分野決め(1回)

制作コンセプト協議では、郷土かるたの事例分析をふまえ、「小山かるた」にどのような想いや内容を入れ込むか、小学校社会科学習指導要領と照らし合わせたり、かるたで遊ぶ児童や市民の姿を想像したりしながら協議した。そして、かるたに読み込む題材を、自然(名勝)、歴史的人物、史跡、産業(名産)、交通、文化1(食べ物)、文化2(祭り、伝統、イベント)、公共(建物、願い、シンボル)の8分野に分け、それぞれの担当グループを決めた。各グループの担当分野と掲げた制作コンセプトは以下の

通りである。

グループ1（歴史的人物担当）「思い出いっぱい 笑顔いっぱい のびゆく小山」  
グループ2（産業担当）「おや、まゝ！こんなところがあったのか！それ小山かるた」  
グループ3（公共担当）「昔と今と未来の小山」  
グループ4（史跡担当）「深味ある小山市！歴史を味わう」  
グループ5（自然担当）「思川流れる開運のまち、小山」  
グループ6（文化2担当）「小山のじまん発見」  
グループ7（文化1担当）「“こやま”じゃないよ “おやま”だよ！」  
グループ8（交通担当）「そうだ 小山に 行こう」

### ② 分野別推薦題材のグループ別会議、題材の全体発表及び決定（1回）

あらかじめ受講生に貸し出した『小山百景』（小山市，2004）をもとに、各自が選定・文献研究してきた題材について、グループ内で検討・協議した。その後全体発表し、重複した題材がないよう調整して、全46題材を決定した（第1表）。

### ③ 題材の文献研究発表会（1回）

決定した題材について、小山市における地理的位置、歴史、社会文化的意義が分かるよう、各グループで資料を作成して発表をした。その際、郷土かるた事例分析プレゼンテーションの経験を十分活かすように留意させた。

### ④ フィールドワーク概説とフィールドワーク実施要項説明（1回）

フィールドワークの定義、小学校社会科におよび郷土かるたづくりに関するフィールドワークの意義と方法について概説した。その後、実施にあたっての事前準備（取材申込み、取材内容の明確化等）、注意事項（取材マナー、写真撮影、現地資料の収集等）、事後報告書の提出及び発表準備について説明・確認をした。

⑤ フィールドワーク発表、かるたキットの配布と書き方説明（2回）

グループ別に一人2分ずつ、取材の概要と要点、読み句案を発表した。その際、筆者が事前に各学生から受け取ったフィールドワーク先の画像をパワーポイントで映写した。なお、学生のフィールドワーク先は以下の通りである。

小山市役所（商業観光課、水と緑の推進課等）、小山市教育委員会文化振興課、小山市中央図書館、小山市車屋美術館、小山市観光協会、小山駅、須賀神社、しもつけ風土記の丘資料館、御白の会事務局、白鷗大学未来創造ネットワーク、妙建寺、間々田八幡宮、渡良瀬遊水地、割烹たる池、乙女屋本店、ほか

発表のあと、かるた用紙2枚・頭文字用シール2枚・解説文用シール1枚をセットとした“かるたキット”を一人ずつ配布した。また、読み札・絵札の書き方を説明した。

⑥ かるた札の回収、かるた大会準備、かるた活用アイデア考案（1回）

講義の始めに各学生から読み札と絵札の原画セットを回収した。その後、「小山かるた」大会開催準備として、対戦グループ決めとグループ内チーム編成を行った。まずくじ引きで対戦グループを決め、それから各グループ内で3人一組のチームを2つ作った。「小山かるた」大会は全2試合実施する計画を立てたので、各グループで編成した2つのチームを、第1試合出場チームと第2試合出場チームに分けた（第3表）。

第3表 2013年度「小山かるた」大会対戦組み合わせ表

	Aコート	Bコート	Cコート	Dコート
1 試合目	グループ2 × グループ3	グループ5 × グループ7	グループ4 × グループ6	グループ1 × グループ8
2 試合目	グループ1 × グループ2	グループ7 × グループ8	グループ3 × グループ5	グループ4 × グループ6

第4表 小学校社会科における「小山かるた」活用アイデア例(2013年度受講生考案)

- \* 3・4年生の学習の際、自分たちで地域の産業、地理的環境、交通の様子、古くから残る建造物、歴史上の人物などを実際に調べ、フィールドワークを通して理解し、かるたを作る。かるた作りは児童の意欲を引き出し、故郷への愛着を育てる。
- \* 5・6年生が子どもたちだけで校内かるた大会を企画し、運営する。
- \* 5・6年生で地理、歴史を学ぶ際、各事象と関係がある札を選んで紹介する。教科書の内容と郷土を結びつけることができる。
- \* かるたを教室に置いておき、自由に使えるようにしておく。遊びながら郷土に触れられるようにする。
- \* 1・2年は生活科、5・6年は総合的な学習の時間を使って校内かるた大会を行い、郷土への愛着を深めさせる。
- \* 郷土に親しみを持たせることを目的した授業をする際に活用できる。読み札を一枚ずつ読んでみたり、絵札を一枚ずつ見て気づいたことを発表したりするのもよい。言語活動と関連させた活用ができる。
- \* 社会科の目標に「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て…」とある。この「小山かるた」で、まずは身近な環境や歴史などを学び、自らの地域に対する愛情を育て、そこから県、国へと興味や関心を広げることができると考えられる。
- \* 他教科・活動との関連でいえば、生活科の昔遊びで地域の方と一緒にかるた大会を開催、生活科の町探検学習の導入、国語科での俳句や詩の学習、特別活動や総合的な学習の時間を使った全校かるた大会、雨で遊べない日の休み時間等の活用が考えられる。
- \* 毎回の授業の始めにかるた遊びの時間をとったり、導入で絵札をクイズにしたりして関心を持たせる。
- \* 「小山かるた」をもとに、より身近な地域のかるたを作成する。自分たちでまちについて調べた後にかるたを作り、作ったかるたで遊んだり、掲示したりする。
- \* かるたに読まれた題材を白地図にまとめたり、4コママンガや新聞、紙芝居を作ったりする。
- \* 地域の人と一緒にかるた大会をする。地域の人に札についての話を聞く。
- \* 家庭科・図工科との関連において、かるたに読まれた特産物を実際に食べたり作ったりする。
- \* かるたの解説文を使って、歴史的観点から地域の人々の生活を知る。

その後、制作した「小山かるた」を小学校社会科教材として活用する際  
のアイデアをグループごとに協議し、全体で共有した（第4表）。

#### ⑦ 「小山かるた」セット作業、かるた大会、講義振り返り（1回）

講義の始めに、筆者が事前に印刷しておいた読み札・絵札シート（A3判）  
を全員で協力して切り離し、5セット分の「小山かるた」を完成させた。  
かるた大会は、前回決めた組み合わせで2試合行った。勝敗は、各チーム  
が2試合で取った点数の合計点で決めた。読み手は受講生の中から男女各  
1名が担当した。大会終了後、筆者から講評と講義振り返りを行い、感想  
文を書かせて終了した。

## (2) 2014年度制作概要

2014年度の受講生は前年より多い61人で、うち栃木県出身学生は25名、その中で小山市出身学生は1名であった。また、これまでに知っていたり体験したりしたことのある郷土かるたは、「太田市市民憲章かるた」（1名）、「上毛かるた」（2名）、「さいたま郷土かるた」（1名）、「富田の名所かるた」（1名）、「下野かるた」（5名）、「U字工事の栃木かるた」（1名）、「両毛かるた」（1名）、「佐野かるた」（1名）、「塩原かるた」（1名）であった。2014年度版「小山かるた」は90分授業10回を使って制作した。その読み句は第5表の通りである。なお、絵札と解説文については紙幅の関係上省略する。

第5表 2014年度版「小山かるた」読み句、題材、題材分野一覧（読み句の五十音順）

	読み句	読み句の題材	題材分野
あ	歩いて測量 伊能忠敬	伊能忠敬	歴史①
い	いにしへの 窯跡残る 乙女不動原	乙女不動原瓦窯跡	歴史②
う	美しい 天使の歌声 ハンドベル	ハンドベル	小山ブランド
え	エブリデイ 家族ニコニコ ハーヴェスト	ハーヴェストパーク	子ども神楽に聴かす00
お	おやま和牛 安全おいしさ 地産地消 お神輿で アンゴステンノー 祇園祭 小山氏の 繁栄見守る 祇園城 思川 桜で彩る 桃色に 小山市の いいとこづくし ブランドまつり	おやま和牛 祇園祭 小山義政 思川桜 おやまブランド	小山ブランド 文化 歴史① 自然 小山ブランド
か	活力ある 地域づくりだ J A 小山 関東と 東北をつなぐ 東北本線	J A 小山 東北本線	交通・産業 交通・産業
き	桐生から 小山へ運ぶ 絹織物	両毛線	交通・産業
く	グランプリ みんな認める おやま和牛	おやま和牛	小山がNo.1
け	蹴られても 好機到来 藩主へと	本多正純	歴史①
こ	ここにあった小山の砦 鷲城	鷲城跡	歴史②
さ	寒川尼 政光くんと まちおこし	寒川尼	歴史①
し	11の 線路でぼくらをつないでる 収穫量 県内1位の イワイノダイチ 商業の 発展願い だるま市	おーパス イワイノダイチ 初市だるま市	交通・産業 小山がNo.1 文化
す	水泳の 鉄人スイマー 荻野公介	萩野公介	小山がNo.1
せ	千年の 歴史に刻む 二人の誓い ソメイヨシノ きれいな並木 地元愛	須賀神社 間中の桜並木	歴史② 自然
た	たくさんの 笑顔が咲くよ 桜道	千本桜祭り	文化
ち	地域愛 市民を支える 小山市役所	小山市役所	子ども神楽に聴かす00
つ	強いひと ねむっているよ 琵琶塚古墳	琵琶塚古墳	歴史②
て	天翁院 今も眠る 政光公	小山政光	歴史①

原 口 美貴子

と	徳川ら 三成討つを 決断す 年始め みんなで魔除け 日の出まつり	小山評定跡 日の出まつり	歴史② 文化
な	謎多き 千手観音 此処に在り	千手観音	歴史②
に	2連覇を 一本勝ちで 飾りとり 日本最大遊水地 自然豊かな 渡良瀬遊水地	海老沼匡 渡良瀬遊水地	小山がNo.1 自然
ぬ	抜きんでた 俳句のセンス 松尾芭蕉	松尾芭蕉	歴史①
ね	願いこめ 思川に入り ひな流す	流し雛	文化
の	濃厚で やみつきになる はとむぎジェラート	はとむぎ	小山ブランド
は	春になり 緑地に現る 桜道 はとむぎを 食べてみんなが にっこにこ	思川緑地 はとむぎ	子ども市民に聴かせる 小山がNo.1
ひ	人々と 地域を繋ぐ 観覧橋 姫君の 霊が宿る 大イチョウ 美容には 自然のサプリ 青たまご	観覧橋 祇園城跡の大銀杏 青たまご	子ども市民に聴かせる 自然 小山ブランド
ふ	ふるさとの 自然と愛情 おやま和牛	おやま和牛	小山ブランド
へ	平和な日常 守っているのは 小山警察署	小山警察署	子ども市民に聴かせる 小山ブランド
ま	まちかどに 身近にあるよ 美術館 舞い上がり 小山の夜空に 咲く花火 満開の 桜が続く 豊穂川	開運☆おやまくま まちかど美術館 おやまサマーフェスティバル 豊穂川	子ども市民に聴かせる 文化 自然
み	観て学ぶ 縄文のくらし 寺野東遺跡	寺野東遺跡	歴史②
む	むかしから 結城紬は イザリバタ	結城紬	小山がNo.1
め	明治から 名前変わらぬ 水戸線さ	水戸線	交通・産業
も	最も早く あゆ釣り解禁 思川	思川の鮎釣り	自然
や	やさしさが 伝わる小山 うどんまつり	開運小山うどんまつり	文化
ゆ	ゆかりある 伝統的な 組紐か	間々田紐	小山ブランド
よ	4万の 人が行き交う 改札口 ようさんを 守り続ける 職人愛 世は戦国 天下分け目の 小山評定	小山駅 繭、養蚕業 徳川家康	子ども市民に聴かせる 交通・産業 歴史①
ら	来年も No.1だ ピール麦	ピール麦	小山がNo.1
り	立派だな 川のほとりに祇園城	祇園城跡	歴史②
る	るんると みんなで遊ぼう総合公園	小山総合公園	子ども市民に聴かせる
ろ	歴史から 小山を学ぶ ウォーキング	小山のまちde開運ウォーキング	文化
る	老人が みんないきいき 小山の地	高齢化対応度調査	子ども市民に聴かせる
わ	私の町と あなたの町を繋ぐ 東北新幹線 湧水と 伝説残る 白髭神社	東北新幹線 白髭神社の湧き水	交通・産業 自然

前年度と同様、「小山かるた」の制作に入る前に基盤作りのための講義を行った。前年度と異なる点は、郷土かるたの事例分析作業を省いたことである。第2表の相互評価例にあるように、事例分析自体は大変意義のある取り組みだが、本年度は学生のフィールドワーク力向上を重点目標の一つとし、これに充てる時間を確保することにした。本年度は8つのワーキンググループを編成し（1グループ8名前後）、各グループに1名の世話係を立たせた。

上記の講義を基盤に、2014年度は以下のプロセスで「小山かるた」作りを進めていった。なお、スケジュール作成と進行役は、前年度同様、筆者が務めた。

① 参考資料配付、制作スケジュールの確認、小山市の地域の特徴講義、郷土かるた体験、「小山かるた」制作コンセプト確認、グループ別担当分野決め、プレ・フィールドワーク事前説明（1回）

「小山かるた」作りの参考資料として、前年度同様『小山百景』を一人一冊ずつ貸し出し、精読したうえで今後の作業に取り組むよう指導した。また、今年度は「おやま まちなか かるた」（小山地区わがまちげんき発掘プロジェクト、2014）を用いて郷土かるた体験をした。制作コンセプトについては、前回の講義感想文で寄せられた抱負をコンセプトと見なし、全員で共有した。以下に記す。

- 郷土かるたの本質“土地とつながり 人とつながり 自分とつながる”を目標として取り組みたい。
- フィールドワークなどを通して地域の新しい発見をし、小山市の魅力が伝わるかるたを作りたい。
- コアな小山を知ってもらえる良い機会にしたい。国際交流にも役立てたい。
- 郷土の歴史や産業、文化等をしっかり調べて、良いかるたを作っていきたい。
- どこにでもあるようなことを札にするのではなく、小山特有の、小山にしかないものを見つけて作っていきたい。
- 小山の人たちに親しみを感じてもらえるようなものを作りたい。また自分も思い入れのあるものが作れるようにしたい。
- 読み手や遊び手が郷土のことをよく理解できるよう、絵も忠実に描きたい。
- かるたをやりながら地元の新しい発見を与えられるようなかるたを作りたい。
- 地域の良さを伝えられるよう表現し、地域に失礼がないように取り組んでいきたい。
- 思いつきやイメージで作るのではなく、フィールドワークできちんと現物を見て、題材をありのままに表現したい。
- 教育者らしく、かるたの本質を忘れずに作りたい。
- 自分が小学校の先生になったら導入したいと思っているので、その練習だと思って積極的に取組み、楽しめるかるたを作りたい。

グループ別担当分野決めは、前年度に改良を加えた8分野を設定し、1グループが1分野を担当した。今年度の分野種類は、自然（地形、気象、名勝、景観地）、歴史①（社会的・文化的に活躍したゆかりの人物）、歴史②（史跡・旧跡）、交通・産業（幹線道路、鉄道、農林水産業、工業、サー

ビス業)、文化(祭り、イベント、食べ物)、小山ブランド、子どもや市民生活に関わる〇〇、小山がNo.1(小山がいちばん多い、評価が高い等)である。

プレ・フィールドワーク事前説明は、この後に行う小山駅西口エリアのまち歩きに関する実施案内である。これは前年度行わなかった新しい取り組みで、受講生個々に課すフィールドワークの前に、あらかじめその視点や注意点、意義を実体験として学ばせ、それを本番で活かしてもらうために取り入れた。実施にあたっては小山市観光協会事務局次長の大島満雄氏の協力を得た。大島氏は栃木県立高校の社会科教諭を定年退職されたのち、市観光協会事業で活躍されており、本活動の協力者として適任であると判断した。また、普段地域の方々と出会う機会があまりないと思われる学生にとってよい交流になることや学校教育における地域の人材活用について考える貴重な機会になると期待した。

## ② プレ・フィールドワーク(2回)

小山駅西口に集合した後、前述の大島氏の解説を得ながら、祇園城通り、小山御殿広場、小山評定跡、城址公園を歩いた。なお、受講人数が多かったため全員で一度に行動するのは実施効果が薄れると考え、クラスを2つ(4グループずつ)に分け2回実施した。フィールドワークに参加しないグループについては、講義室にて各グループが担当する分野の題材選定を進めることを課題に出した。プレ・フィールドワーク実施後は、「地域教材の開発におけるフィールドワークの意義」と題したレポートを提出させた。

## ③ かるたに読み込む題材発表と選定(1回)

グループごとにあらかじめ選定した具体的な題材を発表した。その際、小山市都市地図(昭文社、2011)上に題材名を記した付箋を貼り、地理上の位置を確認しながら進めていった。題材の所在地や重複の調整をしながら、全61題材を決定した。(第5表)。

#### ④ フィールドワーク概説とフィールドワーク実施要項説明（1回）

前年度と同内容であるが、プレ・フィールドワークの経験を十分に活かすよう指導した。

#### ⑤ フィールドワーク報告及び読み句案発表、かるたキット配布（2回）

グループ1から順に、実施したフィールドワークの概要、題材に込めるメッセージ、読み句案2種を発表した。発表を聞く側の受講生は、2種の読み句案のうちどちらがより教材として適切に表現されているかを選定した。なお、今年度のフィールドワーク先は以下の通りである。

小山市役所（経済部商業観光課、ブランド創成推進室、生活安心課、保健福祉部高齢生きがい課等）、小山市教育委員会文化振興課、小山市中央図書館、小山市中央公民館、小山警察署、小山市立博物館、小山市観光協会、小山総合公園、県南体育館、小山駅、小山駅サクラミチ、JA おやま、小山市農協西部地区青果物集出荷施設、祇園城趾、天翁院、小山縄文まつりの広場、寺野東遺跡資料館、琵琶塚古墳、乙女不動原瓦釜跡、白髭神社、白鳥八幡宮、間々田八幡宮、須賀神社、須賀神社会館、鷲城趾、寒川尼墓所、小山評定跡、小山御殿跡、おやまゆうえんハーヴェストウォーク、間々田ひも店、まちかど美術館、思川緑地、豊穂川、観見橋、まちの駅思季彩館、おーばすの運転手、おやま和牛肥育農家、いきいきセンターあゆみ、小倉商店郷土館、道の駅思川、日本紙人形会・下野人形会長諏訪さん、思川桜並木（思川土手）、渡良瀬遊水地、烏骨鶏王国アライふぁーむ、白鷗大学ハンドベル部、ほか

#### ⑥ 読み句選定・整句作業（1回）

各受講生が発表した読み句案2種について、下記のレベルで優先づけてどちらか1種を選定していった。その際、可能な限り頭文字が五十音に揃うよう、全員で句案を修正、改良していった。

レベル1 全ての読み句案を五十音順に揃え、頭文字が1つしかない句案は優先して決定した。  
レベル2 フィールドワーク報告後に行った選定で、2つのうち選ばれた数が多い方の句案を一覧表に残した。  
レベル3 選ばれた数が同じだった句案については、重複した頭文字が少ない方を一覧表に残した。

⑦ かるた札の回収、かるた大会準備、かるた活用アイデア考案（1回）

前年度と同様、かるた札を回収した後、かるた大会開催準備として、対戦グループ決めとグループ内チーム編成（今年度は人数が多いため4人一組）を行った。また、全員で「やく札」を考案した。「やく札」は、序歌的な役割と同時時に有利になる“親札”を「え」としたほか、市名である「お」「や」「ま」から始まる札を揃えると勝点に20点加算、小山にある水関係の札「ま」「も」「に」から始まる札を揃えると勝点に10点加算とした。その後、制作した「小山かるた」を小学校社会科教材として活用する際のアイデアをグループで協議させた（第6表）。

⑧ 「小山かるた」セット作業、小山かるた大会、講義振り返り（1回）

2013年度と同様、全員でかるたセットを5つ作り、かるた大会を2試合行った。大会終了後、筆者からの講評と講義振り返りを行い、感想文を書かせて終了した。

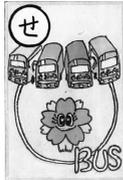
第6表 小学校社会科における「小山かるた」活用アイデア例(2014年度受講生考案)

- 小学校第3学年の自分の市について調べたり、教科書を使って学んだりする単元の導入として、“まずは小山市にどのような特徴や場所、有名人がいるのか”等を知るために使う。そうするとこの単元への興味がわくと思う。
- かるたにある場所（遺跡や川、市役所）などを社会科見学としてめぐる。かるたをやって、身近にあるもの、知っているものについて挙げて調べる。
- 自分たちの住んでいる身近な地域や市について、観察・調査したことを復習するためにこのかるたを利用し、理解を深める。
- 使い方としては、教師が読み札を読み、グループごとに競う。その際、読み札の後ろにある説明文を活用したいので、一手一手先生が説明文を読むといいと思う。
- ゲーム形式で学習することで、コミュニケーション能力を育てることができる。産業・交通以外にも小山の歴史や人物といった他のジャンルについても学ぶことができる。
- 歴史の時間に関連ある遺跡や人物について、かるたの解説文を活用して教える。農業や産業、公共施設などの学習の際に用いる。
- 地域社会への愛情、誇りを育てるためにかるたを活用する。
- 地域かるた作り活動の中で、調べ学習やフィールドワークを行うことによって、地域の社会的現象に目を向ける力や資料を活用する力、また考えたことや調べたことを表現する力を育むことができる。
- 身近な地域のことに関心を抱き、地域の人々と交流もできると思うので有効である。
- 小山の自然や歴史、産業等を学ぶことができる。公民館などでかるた大会を行い、地域の方々も招待して交流をはかり、小山の歴史を分かち合って学ぶことができる。かるたの中で興味を持った札を調べて実際にフィールドワークをして理解を深める。

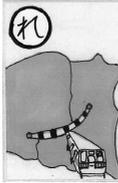
### 3 完成版「小山かるた」の編纂と活用

#### (1) 編纂の概要

2013年度と2014年度で制作した読み札、絵札を用いて、筆者が担当する3年次ゼミナール（2014年度後期開講）において完成版「小山かるた」を編纂した。その全44の絵札と読み句を次に紹介する。なお、実際の読み句には漢字にふりがなが付してある。

 <p>安全と 良質自慢の おやま和牛</p>	 <p>いしへの 釜跡残す 乙女不動原</p>	 <p>うまいうまい 柔らか ジューシー おとんの肉</p>	 <p>栄養満点 小山ブランド 赤・青たまご</p>
 <p>小山うどん イワイノダイチと 伏流水</p>	 <p>かんぴょうの ジャムが 入った 甘いのかんた</p>	 <p>北関東 三県結ぶ 小山大橋</p>	 <p>車から 子どもを守る 愛の橋</p>
 <p>県内で 最大級の 琵琶塚古墳</p>	 <p>五十五の天井格子絵 妙建寺</p>	 <p>最期まで源氏に仕えし 小山朝政・寒川尼</p>	 <p>収穫量 県内一位の イワイノダイチ</p>
 <p>須賀神社 千年続く 小山の鎮守</p>	 <p>生活を支える おーぼす 11路線</p>	 <p>空に響く 天使の歌声 ハンドベル</p>	 <p>戦った 小山義政 鷲城で</p>

 <p>超特急 便利で快適 東北新幹線</p>	 <p>つややかな 絹糸つくる 養蚕業</p>	 <p>伝統守って ジャガマイタ</p>	 <p>徳川の 世を導いた 小山評定</p>
 <p>中河原 家から家へと 地蔵を廻す</p>	 <p>二条大麦 初夏に広がる 黄金の実り</p>	 <p>抜きんできた 鉄人スイマー 萩野公介</p>	 <p>願いこめ 思川に ひな流す</p>
 <p>飲む人に 幸福もたらす 酒造り</p>	 <p>華やかな 手染めの 組み生糸 間々田ひも</p>	 <p>人々と 地域をつなぐ 観見橋</p>	 <p>故郷思い 憂いを帯びた御白の句</p>
 <p>紅色淡く 小山を染める思川桜</p>	 <p>本当だ 顔が小山でできている</p>	 <p>舞い上がれ 小山の夜空に咲く花火</p>	 <p>実がつかない!? 姫君宿った大イチョウ</p>
 <p>むかしから 結城紬は イザリバタ</p>	 <p>目を奪う 海老沼匠の一本技</p>	 <p>盛り土に 歴史が眠る 寺野東遺跡</p>	 <p>厄除けに御輿をかつぐ 祇園祭</p>

 <p>有力な武士団作った 小山政光</p>	 <p>四万の人が行き交う 小山駅</p>	 <p>ランドマークは 回轉木馬</p>	 <p>両毛線 栃木・群馬の シルクトレイン</p>
 <p>るるんと みんなで遊ぼう総合公園</p>	 <p>レールは続くよ 水戸めざし</p>	 <p>老人がみんないきいき 小山の地</p>	 <p>渡良瀬の 自然豊かな遊水地</p>

編纂に携わったゼミ生は4名で、全員栃木県出身であるが、小山市出身者は一人もいない。うち3名は2014年度前期の社会科概説Ⅱ受講生であり、「小山かるた」作りの経験を有している。完成版「小山かるた」の編纂は、90分授業7回と市内巡検3回を使って行った。その過程は以下の通りである。

### ① 完成版「小山かるた」編纂行程打ち合わせ（1回）

まず、2013年版と2014年版の「小山かるた」を全員で体験し、全107組の読み札と絵札の内容を確認した。そして、44組のかるたに仕上げていく行程を以下のように作った。

ステップ1	題材が重複している読み札がある場合は、その中から一番適切と考える札を1枚選ぶ。
ステップ2	ステップ1で選んだ札の中から、1分野4～5枚になるよう選ぶ。今回は次の9分野を設定した。 自然（地形、気象、名勝、景観地等）、歴史的人物（社会的・文化的に活躍したゆかりの人物）、史跡、交通（幹線道路、鉄道等）、産業（農林水産業、工業、サービス業等）、小山ブランド、文化1（食べ物、芸術等）、文化2（風習、祭り等）、公共物（公共施設、市のシンボル、子どもや市民生活に関わるもの等）

ステップ3	選ばれた札が五十音順の44枚の読み札になるよう、修正したり、改句したりする。
ステップ4	ステップ3で整った44枚の読み札に対応する絵札と読み札の解説文を用意する。2013年度・2014年度に制作した絵札や解説文がそのまま使える場合は使用し、不備がある場合は一部修正するか新たに作成する。
ステップ5	題材の所在地マップ、かるたを入れる箱を作成する。
ステップ6	読み札・絵札・解説文・所在地マップを印刷し、箱詰めする。

## ② 読み札の精選、決定作業（2回）

上記ステップ1、2、3に対応する。107枚の読み札を題材分野別、題材別、五十音順に並べ替えた3種の表を用いて、まずはゼミ生個々にステップ1～3のプロセスで44枚の読み札を推薦させた。別途、2014年度講義でお世話になった大島氏にも、読み札の学術的な確認と推薦をお願いした。4人のゼミ生と大島氏から推薦された結果をふまえて、3人以上から推薦された読み札については優先的に完成版に入れることにし、それ以下の札については分野や所在地のバランスを考えながら選定していった。また、頭文字が五十音揃うように選定していく必要があったので、随時読み句を修正したり改めたりした。

## ③ 絵札と解説文の用意（2回）

ステップ4に対応する。決定した44枚の読み札に関わる2013年版・2014年版の絵札と解説文を突き合わせ、完成版として使えるものを選定した。そのまま使えない札は修正したり新たに作成したりすることにした。44組の札は4人のゼミ生が11組ずつ分担し、絵札を仕上げたり解説文を整えたりした。なお、解説文は大島氏に添削いただいた。

## ④ 市内巡検の実施（学外活動届を出して3回実施）

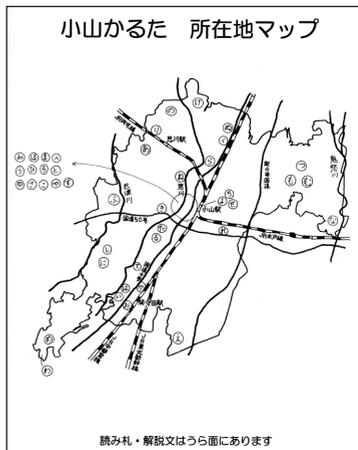
読み札選定後、各札が表す実像や実態を確認するため、また、絵札や解説文作成に必要な写真を撮ったり資料を入手したりするために、3回にわ

たる市内巡検を行った。事前にDVD「カリキュラム開発のための地域調査入門」（信州大学，2009）を視聴し、教材として身近な地域を観察する視点を養った。日程や時間の関係で全札に関係する場所を回れなかったが、行く先々で関係者から貴重な話をいただいた。ゼミ生はこの成果を活かし、それぞれが担当する札の仕上げを進めていった。以下に巡検先を示す。

<p>◆1回目（徒歩で移動）</p> <p>白鷗大学～思川右岸土手思川桜並木～思川緑地～観覧橋～城山公園（祇園城趾、大銀杏）～思川左岸小山政光・寒川尼像～小山市役所～小山市立文化センター～割烹たる池（おとん井とおやま和牛すき焼き定食試食、店主に取材）～妙建寺（住職に取材）～須賀神社～あいざわ肉店（おやま和牛串試食、店主に取材）～小山駅</p>
<p>◆2回目（車で移動）</p> <p>小山駅西口～小山総合公園（開運小山うどんまつり開催中・うどん試食、鷲神社）～間々田八幡宮（奉納子供相撲大会開催中・ジャガマイタの蛇）～乙女屋本店（るかんた他試食）～間々田ひも店（店主に取材）～小山市立博物館・乙女不動原瓦釜跡（ボランティアガイドによる案内）～小川屋（小山産イワイノダイチ使用うどん試食）、渡良瀬遊水地</p>
<p>◆3回目（車で移動）</p> <p>小山駅東口～寺野東遺跡～愛の橋（羽川小前歩道橋）～琵琶塚古墳～おやま和牛肥育農家（取材）～おやまゆうえんハーヴェストウォーク（メリーゴーラウンド試乗）</p>

### ⑤ 題材所在地マップとかるたを入れる箱作り（1回）

ステップ5に対応する。かるたに詠んだ題材の所在地マップを2種類作成した。1つはかるた箱添付用のA4サイズ「小山かるた所在地マップ」であり（第1図）、もう1つは完成後にかかるた遊びを開催する小学校にあらかじめ持参するための模造紙判「おやまかるたたんけんマップ」である（写真1）。模造紙判には、巡検時に撮影した写真を貼付し簡単なコメントを付した。かるたの箱は、プラスチック製のはがきケースを用いた。フタにはゼミ生が描いた絵を貼り、札の仕切りとして厚紙に思川桜の写真を貼ったものをセットした。



第1図 小山かるた所在地マップ

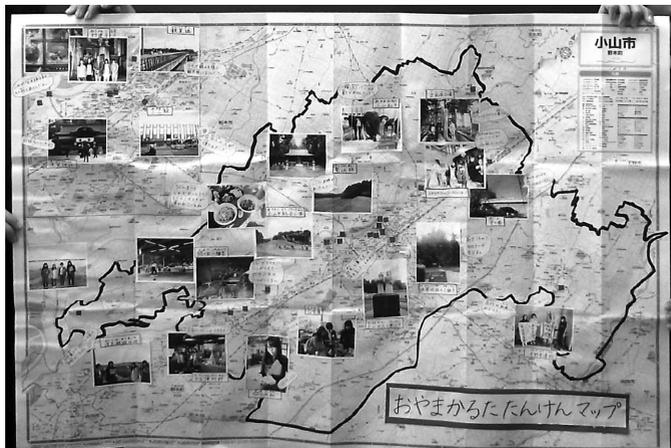


写真1 おやまかるたたんけんマップ

⑥ 読み札・絵札・解説文・題材所在地マップの印刷、箱詰め（1回）

ステップ6に対応する。完成版「小山かるた」は20セット作成した。絵札はゼミ生が仕上げた原画をA3用紙(厚さ0.22mm)に並べて印刷した。読み札は筆者が文書作成ソフトで作成した原版を絵札と同様のA3用紙に印刷した。印刷枚数は大量であったが、全員で丁寧に切り離し、五十音順に一枚ずつ組み合わせて箱に入れ、A4用紙に両面印刷した解説文一覧(省略)と所在地マップも箱にセットした(写真2)。



写真2 「小山かるた」セット

## (2) 完成版「小山かるた」の活用

### ① 市内小学校におけるかるた遊び実践

2015年2月19日(木)に、小山市立下生井小学校の協力を得て、給食後の休み時間を用いた完成版「小山かるた」かるた遊びを行った。事前にゼミ生と学校に赴き、かるた2セットと「おやまかるたたんけんマップ」を渡し、当日の打ち合わせと会場の確認を行った。1年生～6年生全35人で一斉に実施する方法を協議した結果、低学年・中学年・高学年の3つの場に分け、車座になって散らし取りをすること、ゼミ生は4名なので、3名を各学年の審判役、1名を司会進行役にすることを決めた。なお、やく札は、市名の「お」「や」「ま」（3枚全部揃えると勝点に10点加算）、オリンピック札「ぬ」「め」（1枚につき勝点に3点加算）、キャラクター札「か」「ほ」（1枚につき勝点に3点加算）とし、児童に分かりやすいよう、やく札一覧を書いた説明カードを用意した。また、全員への参加賞（折り紙製おやまくま）と各場第1位になった児童用の記念品（折り紙製メダルバッヂ）を用意した。当日のかるた遊びは以下の時程で行った。

12:50～13:00	会場集合
13:00～13:05	司会あいさつ、完成版「小山かるた」の紹介（「おやまかるたたんけんマップ」使用）、遊び方説明
13:05～13:10	低学年・中学年・高学年ごとに分けて車座にし、札を並べて準備する
13:10～13:25	かるた遊び（1札2回ずつ読む）
13:25～13:30	集計、各場で記念品プレゼント、各場第1位の児童発表、終了

かるた遊びには校内の多くの教職員が応援・協力に来てくれたので、大きな混乱もなくスムーズに進めることができた。以下に参加児童と今回の実践をコーディネートしてくれた須藤克己教頭の講評を紹介する。

#### 参加児童の感想

- カルタでいろんなルールがあっておもしろかったです。お、や、ま、ってそろると10てんとれるからたのしかったです。(1年生)
- さいしょはいっぱいとれないと思っていたけど、いっぱいとれてよかったです。学校にあるからやりたいです。ありがとうございました。(2年生)
- いろんな絵があって楽しかったです。絵がとても上手だったので、分かりやすかったです。また今度はみんなでやってみたいです。(3年生)
- いろんな小山にかんけいしたものがたくさんあってすごいなと思いました。(4年生)
- かるただったのであそべるし、小山のよい所がもっと分かった。(5年生)
- 「小山かるた」をやって、小山のいいところが少しでも分かりました。小山市をまわって実際に来てきてすごいと思いました。私も1こでも2こでも見てみたいです。(6年生)
- 白鷗大学の学生が、実際に地域に行って44枚のかるたを作ったのが、とても大変だろうなと思いました。小山には44も有名なものがあって、自分が住んでいる地域なのに分からないところが多かったです。(6年生)
- このかるたで遊び、小山のいろいろな事がおぼえられました。歴史や場所が覚えられるので、昼休みもみんなで遊んで、全部の札の場所を覚えたいです。(6年生)

#### 須藤克己教頭の講評

先日は、本校の子どもたちのために、わざわざおいでいただき、ありがとうございました。いろいろ工夫していただきましたおかげで、子どもたちは「小山かるた」を通して、楽しい時間を過ごすことができたようです。(中略) 子どもたちにとって、小山のいい所を再認識するいい機会となりました。また、学生さんたちが、実際のかるたの場所を訪れて学習したというのも、子どもたちにとっていい刺激になったようです。学生さんたちが、教員になって活躍すること、そして原口先生の講義がさらに充実されますことを、心よりご期待申し上げます。ありがとうございました。

#### ② 白鷗大学教育学部講義における活用

完成版「小山かるた」は筆者が白鷗大学で担当する社会科概説Ⅰ・Ⅱ及び社会科教育法において活用している。社会科概説Ⅰでは身近な地域の学習内容・方法の一例として、社会科教育法では小学校社会科教材の一例として、社会科概説Ⅱでは「小山かるた」に続いて現在「栃木かるた」作りに取り組んでいるが、その先行事例として紹介している。

### ③ 協力者への寄贈と活用支援願い

完成版「小山かるた」ができるまで、大変多くの地域の方々との協力を得た。その中でも特に大きな指導・助言をいただいた小山市観光協会と事務局次長の大島満雄氏に一部ずつ寄贈し、あわせて今後の活用と広報をお願いした。今後は学生がお世話になったフィールドワーク先に可能な限り寄贈し、活用協力をお願いする予定である。

## 4 「小山かるた」づくりの感想

以下に、「小山かるた」づくりに取り組んだ2013年度・2014年度受講生の感想の一部、完成版「小山かるた」を編纂した4名のゼミナール学生の感想、2014年度から本取り組みに協力いただいている小山市観光協会事務局次長大島満雄氏の講評を紹介する。

### 2013年度及び2014年度社会科概説Ⅱ受講生の感想

①かるた大会は、20歳過ぎの学生たちが盛り上がるのだから、当然小学生の子どもたちも楽しんでやるだろうと想像した。また、自分で作った札が読まれると、苦勞した分やはり嬉しくなり、小山かるたに対する愛着が湧いた。グループや他グループ、全体に迷惑がかからないようにコツコツと努力した結果が、みんなでかるた大会という形で終わって、正直学ぶというよりも、楽しさが残った。ありがとうございました！（2013年度受講生）

②自分で現地へ行って話を伺ったり、ネットで調べたりしたことによって、本気であるづくりをしようと考えた。かるたの読み方もずっと考え、絵札も撮ってきた写真をもとに下書きをして描いた。気がつくと絵札だけで5時間はかかっている、楽しみながら制作ができた。かるた大会も皆が説明していたのを聞いていたので、絵を楽しんでみながら遊べた。一つの作業を通して全体的にも1つになってできたと思う。（2013年度受講生）

③社会科教育における身近な地域の学習は、子どもたちと地域の関係やつながりを作るために有効だと考える。プレ・フィールドワークに行ったときに、ただの登校道だった場所が急に親しみのある場所に変わった。また、小山の歴史を知って興味を持った。訪れた場所で出会った人々と会話し、地域で働く人や暮らす人にも親しみを感ずることができた。小学生や中学生も、身近な地域の学習をすることで、新たな発見をしたり、そこに暮らす人々について知ったりすることができると思う。そして、自分の生活している地域に愛着を持ち、

その後、他の地域を学習するときにも、他の地域について知りたいな、どこが違うのかな、という意欲につながると思う。郷土かるたを作ることは、子どもたちの記憶に印象強く残ることから、地域について調べさせたり、現地に行ってみて実際に学ばせたりするときに有効だと思う。また、かるたを作る過程で家族に話したりすると思うので、親御さんもまきこんで、地域について考えてもらう、知ってもらうきっかけになると思う。(2014年度受講生)

④子どもたちにとって身近な地域について知ることは、子どもの郷土愛を育てるきっかけになる。成長し、地元以外の人と知り合うようになれば、自分の地元について説明する機会が訪れるだろう。そのときに、地域学習をしっかりと行っていた子どもなら、土地の違いや自分の地元の良さを説明できる人になるだろう。かるた作りはそのような人を社会に増やす手助けをしてくれるに違いない。また、子どもも大人も遊べるものなので、次の世代に郷土のことを伝えるものとなってくれるはずだ。(2014年度受講生)

#### 2014年度3年次ゼミナール学生の感想

①小山は2年間住んでいたの、ある程度のことは知っていると思ったが、実際に調べてみると知らないことばかりで、さらに小山の魅力を感じることができた。また、文献資料で十分理解できたと思っていても、実際にフィールドワークをしてみると文献資料ではわからなかったことを見たり聞いたり感じたり、地域の方々とも交流することができ、得ることがたくさんあった。特に各場所の方にお話を聞くときは、ただ話を聞いているだけでなく、「それはなぜだろう」と疑問をもち、積極的に質問することも大切だと思った。これは、教育についても同じことが言えると思う。自分が十分理解したと思っていても、まだ調べきれていないことがあるはずである。一つの方法だけでなく様々な手段で調べることが大切であることを学んだ。また、小学校での社会科見学なども教科書からではわからないことを学ぶことによって、さらに深い理解を得ることができると感じた。

小山かるたは、授業で作った物を精選することから始まったが、ここがとても難しく大変だった。絵札はどこを強調すべきなのか、見栄えはどうか、読み札はどの言葉をいれるべきか、響きはどうかなど、小学生である遊ぶ側の立場に立って考えた。ゼミの皆と案を出しあうことで、よりよいものになったと思う。

完成した「小山かるた」を実際に小学校で遊ぶ際は、賞品を用意しさらに楽しんでもらえるように工夫した。結果的に、とても盛り上がってくれて嬉しかった。賞品を渡している際に少し児童に話しかけてみると「11枚もとったよ!」と嬉しそうだった。このように楽しいゲーム感覚で学べると頭に入りやすいのではないと思う。そして、今回の小山かるた遊びのように「オリンピック札は3点プラス」「キャラクター札は3点ずつプラス」など、児童たち自身がゲームのルールをつくれるようになると、さらに理解が深まるのではないかと考える。

全体を通して、少し大変ではあったが、その反面とても楽しく達成感があった。「小山かるた」作りを通してどのように学ぶべきかという児童目線と、どの

ように教えるべきかという教師目線の二つの目線から考えることができたと思う。また、今回の子どもから大人まで遊べるかるたとは別に、かるたの解説文や別紙の説明など全てを小学生向けにして、完全小学生用のかるたを作っても面白そうだなと思った。この「小山かるた」で小学生には、小山はこんなにも誇れるものがあるという「小山の魅力」に少しでも気づいてもらえたら嬉しい。(阿久津咲)

②約半年間の小山かるた作りを通して、改めて郷土かるたは地域に対する認識や知識を深めてくれる優れた教材だと実感した。しかし実際に授業に生かすにはさらに教師の工夫を考えなくてはいけないと思った。

かるたの作成においては、フィールドワークや文献調査、札の精選など予想していたよりも多くの時間がかかった。「どの題材を選ぶか」「どんな絵を使うか」と検討する中で、さらにその題材について知識を深めたり新たな発見をしたりすることができた。小学校では国語等でもかるたを教材として取り上げることがあるが、社会科の郷土かるた作りの良さは、作っていく過程で地域の人々や場所と実際に関わり、その知識を活用して作れることだと思う。言語活動の充実が初等社会科教育でも求められている。友達に紹介したり友達と考えたりと調べて紙にまとめるだけの学習よりも言語活動が活発に行われ、達成感があることもかるた作りの良さだと感じた。また、地図に印を付けて題材の位置確認することで地理的理解も深まる。かるたを作っているとき、ふとイベントのポスターや小山の特産品を目にしたときに、「あ、これってかるたでやった」「この行事ってこの時期にやるんだ」などかるたで覚えた知識と自分の実際の日常生活がつながっていくことに、小山かるた作りに取り組んだ成果を感じた。今までぼんやりとしていた小山のイメージが、空間的にも時間的にも小山の魅力の色々と知ること、段々と輪郭がしっかりとってきて色鮮やかになったことに感動した。子供達も自分の生活とかるたの知識が繋がったとき、より一層地域への理解と愛着が生まれるのではないかと思った。そのため、社会科の授業でも出来れば実際に子供達にかるたを作る経験をさせたいと思った。

下生井小でのかるた大会では、一回目の遊びということで子供達は頭文字に集中してしまっただけの内容まで意識できないのではないかと思った。しかし高学年になると札に描かれていることも話題にあがっていた。特にインパクトのある絵は注目が集まっていたり人物が描かれている札はそれが誰なのか興味を持ちたりしていた。繰り返し遊ぶことで自然と絵と句が頭に入ることがかるたの魅力だが、子供達が地域のことに関心を持つきっかけとしても効果があると思った。子供達に繰り返し遊んでもらうことが理想だが、それが難しい場合には遊ぶときに既に読んだ札を再度読んだり最後まで札を読んでから取らせたり工夫するとさらに学習効果上がるのではないかと思った。(潮田えみ)

③小山かるた作りは、初等社会科教育の郷土学習において、小山市に関することを楽しみながら、深く学ぶための有効な教材になると考える。なぜなら、かるたを作るために地域のことを事前に調べ、フィールドワークを行うことで、見たり聞いたりだけでなく、実際に触ったり体験したりして体で感じるができる。そして、調査結果を巡検マップにまとめることで、どの地域に何があるのかを小山市全体から見つけ出すことができ、実際にフィールドワークを行っ

た時の写真と感想を載せることにより、その時の様子も思い返すことができるので、地域に関する学びを継続することができるからだ。また、完成したかるたで何度も遊ぶことにより、短い読み句なので覚えられ、小山市のことを知ることができ、絵札の絵を見れば、それはどんなものかがすぐにわかる。特に、かるたで遊びながら小山市に関することを学べるのは、小学校の児童にとって、学ぶことが楽しいと思うきっかけになると考える。

小山かるた作りは、決して簡単なものではなく、たくさんの資料で調べるところはもちろん、フィールドワークを行う中での地域の方々の協力があるからこそ成し遂げられることだと思う。資料に関しても提供してくださったから事前事後に調べることができた。フィールドワークを行っている時にも、その場所ごとで様々な方のお話を直接聞くことができ、確かな情報をたくさん得ることができた。

小山市内を調査したのは約3日間くらいだったが、小山市内の方々とお話ししたり、遊びを教えていただいたり、自分たちがこれを聞こうと準備していないような詳しい話まで聞くことができたりしたことは、フィールドワークでしか味わうことができない貴重な体験だった。人との関わりの大切さも改めて感じることができた。

下生井小学校での実践においては、事前の準備は整っていたが、児童に遊んでもらうのは初めてだったので、グループ分けや対応が難しかった。高学年が中学年に混ざったり、低学年の人数が多すぎてしまったり、反省すべき点は多くあるが、協力し合って作ったかるたで遊んでもらえたことの喜びは大きい。遊んでいる様子を観察していても、どの学年も楽しそうだったのが嬉しかった。これからも小山かるたでたくさん遊んで、小山市をたくさん学んで欲しい。私ももっと小山市を知りたいと思ったし、自分の住んでいる市や栃木県についても知りたくなった。児童たちにもこのような関心を持ってもらいたい。(兵藤瑞穂)

④約半年間、小山かるた作りを行って、教材づくりの難しさ、大変さがよく分かった。私は、小山市の子どもたちに、小山市の魅力をもっと知ってもらえるような教材をつくりたいという目的を持って、小山かるた作りを行ってきた。小山かるた作りでは、かるたに読み込題材選びや絵札、読み札、箱作り、巡検など様々な活動を行ってきた。その中でも、巡検はかるた作りにおいて、特に重要な工程であったと感じた。本やインターネットなどでも題材について調べることが可能で、簡単である。しかし、実際に行って、見てみないと分からないこともある。例えば、迫力や神聖さである。また、お寺の住職さんや学芸員さん、酪農家の方などそのことに精通する人に直接話を聞けることは、巡検することの良さであると感じた。

読み句作りは、44音かかぶることなく、魅力が伝わるリズムの良い読み句にすることがとても難しかったが、短い文の中にそれぞれの魅力を詰め込むことができた。

絵札やかるたの箱の表紙作りは、デザインを考えることが好きなので、とても楽しく作ることができた。デザインを考えるときは、一目見てその題材だと分かるような、簡単で分かりやすいものになるように心がけた。かるたの箱の表紙は、小山の自然をテーマにデザインした。色は、潮田さんを中心にして

だけ優しく、自然な色になるように工夫し、納得のいくものに仕上げる事ができて良かった。表紙は、塗り方やデザインなど工夫を凝らして作ることができた。

下生井小学校でのかるた大会は、かるた中の姿勢や誰が札をとったのかの判断など、予想していたよりも大変だったこともあったが、全体的に楽しそうにやってくれたのでうれしかった。どの学年も楽しそうだったので、3、4年での郷土学習でこのかるたを取り入れれば、良い教材になるのではないかと感じた。

このゼミでかるたを1から作ることを行ってきたが、1から教材を作ることの大変さがよく分かった。また、教材づくりには、教師の子どもにもこうなってほしいという願いや意図が大切であることが分かり、良い経験になった。(三橋香帆里)

#### 小山市観光協会事務局次長大島満雄氏の講評

立派なかるたが完成し、先生、学生の皆さん、さぞかし完成の喜びを感じていることと推察しております。かるたの専門的知見を持たれる先生のご指導のもと、学生さんのかるたに懸ける熱い思いが立派な成果物となったのですね。小生、期待に添えることはできませんでしたが、皆さんの完成までの目に見えないご苦労、ご努力と皆さんの結束があってこそと存じ、賛辞を贈らせていただきます。早速、下生井小学校での「かるた」を利用した地域学習をなされ、皆さん、楽しく地域学習をされたことでしょう。まさに、郷土愛に結びつく教育です。有り難うございました。感じたところを申し上げますと……

- すべて、かるたが皆さんの手で作られ、工夫されております。(思川桜で仕切られたケース、アイデア豊富)
- かるたの「読み札」題材が、歴史、産物、産業、イベント等々満遍なく取り上げられており、いいですね。必ずしも地元の学生さんでなく、新しい題材に直面し、その分大変であったでしょうが、それだけ、生き生きとした感性で表現されており、いいです。このご苦労、体験が後の教職で必ず活かされるものと信じ、期待しております。
- 絵札は、それぞれ含蓄があり、しかも、親しみやすく描かれており、子供さんも楽しく遊べることでしょう。これこそ、小山の子供に郷土愛を育む教材として活用されればと期待しているところです。

先生には、栃木県での郷土かるたづくりに取り組まれている由、ますます夢深まるばかりですね。(中略) 学生の皆さんにもよろしくお伝えいただければ幸甚に存じます。

## 5 おわりに

小稿では、本学の講義「社会科概説Ⅱ」で制作した「小山かるた」と、その「小山かるた」をもとにしてゼミナールの学生とともに編纂した完成版「小山かるた」について、それぞれの制作過程、受講生の感想を記すとともに、完成版「小山かるた」を用いた活用例についてその概要を紹介した。かるたの制作や活用に関わった受講生の感想から、小山市に対する認識の深化や、グループで協力しあいながら責任を持って一つの教材を完成させていく達成感、郷土かるたが小学校社会科身近な地域（郷土）の学習教材として有効であることの気づき等、多面的な効果を確認できた。このことから、郷土かるたづくりの演習を通した身近な地域（郷土）の本質や意義、身近な地域（郷土）の調査手法、身近な地域（郷土）教材の作り方の理解という本講義で設定したねらいは、目指すレベルまで達成できたといえるだろう。

大学の限られた授業回数の中で郷土かるたづくりを行う際は、教育実習で公欠する学生や課題提出が遅れる学生への対応など、全体の足並みが揃わなくなる場面が多々発生し、その都度臨機応変な態度、作業行程の細かな見直しが迫られる。担当教員の負担は少なくないが、本講義内容に興味・関心を持って履修を決めた学生の期待に応えられるよう、創意工夫を施しながらさらに専門性の高い講義を創っていきたい。

フィールドワークや活用場面でお世話になった関係者からは、学生の熱心な取り組みやかるたの完成度に対して予想以上の好評価をいただいた。この場を借りて、ご指導ご協力を厚く感謝申し上げます。

紙幅の関係上、教師教育における郷土かるたづくり（フィールドワークを含む）の有効性に踏み込んだ分析・考察はできなかった。それについては別稿を期したい。

## 主要参考文献

- 秋沢富五郎・林昇（1987）「地域素材の教材化に関する基礎研究—素材の掘り起こしについての検討—」, 神奈川県立教育センター研究集録6, pp.7-12。
- 原口美貴子（1999）「大学生と作った群馬県のかるた1997—社会科郷土学習の一環として—」, 群馬大学社会科教育論集第8号, pp.10-18。
- 小山市教育委員会文化振興課（2004）『おやま百景』, 小山市。
- 日本郷土かるた研究会（2005）『郷土かるたハンドブック』, 群馬大学附属図書館。
- 原口美貴子（2007）「郷土かるた研究の展開（1993-2006）」, 群馬大学社会科教育論集第16号, pp.13-18。
- 信州大学（2009）「カリキュラム開発のための地域調査入門（DVD）」
- 小山市企画財政部企画政策課（2011）『第6次小山市総合計画』, 小山市。
- ㈱JTBパブリッシング（2011）『るるぶ特別編集ようこそ！小山』, 小山市。
- 佐藤郁哉（2012）『フィールドワーク増補版』, 新曜社。
- 山泰幸・足立重和編（2012）『現代文化のフィールドワーク入門』, ミネルヴァ書房。
- 小山市企画政策課（2014）『市政60周年記念小山の歴史』, 小山市。
- 文部科学省（2014）『小学校学習指導要領解説社会編』, 東洋館出版社。